



## 2025年旭山記念公園ネイチャートピックスダイジェスト

2025（令和7）年、旭山記念公園の自然に関するトピックスをダイジェストでお届けします。

- シロハラ初越冬**：通常春と秋に数日間見られるシロハラ、2024年12月下旬に数羽が来て4月まで毎日見られ、初めて越冬を確認しました。
- ツグミ多数越冬**：ツグミもシロハラと同じ頃に現れ、4月上旬まで多い時で約50羽が見られました。2024年はナナカマドの実が大豊作、2月下旬に実がほぼなくなり個体数は減りました。ツグミは通常2月に入ると大半が南に移動しますが、2024年秋から25年春はあまり南に渡らず、関東以西ではほとんどツグミが見られなかったそうです。

シロハラもナナカマドの実に依存しての越冬でした。

- キビタキ、コサメビタキ等砂浴び**：巨木の谷の土が出ている場所で8月にキビタキやコサメビタキが砂浴びをする姿が見られました。
- イカルがヌルデを**：9月上旬からひと月ほど、イカルがヌルデの実を食べに来て（写真①）、多い時で30羽前後が見られました。警戒心が強いイカルをこんなに間近で見たのは初めてという方も多かったようです。

ヌルデの種子は塩分が含まれ、元々野鳥にとって貴重な食糧で、通常は茶色く熟して冬になってから食べてますが、今年のイカルはまだ緑色の熟していないものを食べていました（ヌルデの種子写真裏面参照）。

- クロジ**：10月初旬から下旬までクロジが園内で見られていました。通常は春と秋に1～3日見られるだけで、半月以上の滞在は初記録です。

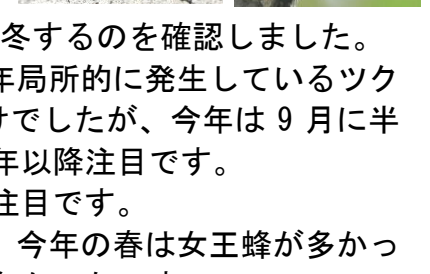
クロジが秋に低地に長居するのは道内一円で見られたことのようにです。

- シマエナガ**：11月後半からはほぼ毎日園内で見られています（写真②）。
- エゾライチョウ園内初** 10/27 エゾライチョウが園内で初めて確認されました（写真③）。旭山都市環境林を含め今後も見られるかもしれません。
- エゾシカ**：今年も夏以降親子で草をはむ姿がよく見られました。
- エゾリス**：今年は個体数が多く、学びの森で複数見かけます。
- ニホンカナヘビ**：今年は多く9月に2時間で12匹見た日もありました。
- ウスバキトンボ**：8/4に園内でたくさん飛んでいるのが見られました。
- カメムシ2題**：例年たまに見る程度のツノアオカメムシ（写真④）、今年は8～9月にほぼ毎日見られ、なぜかよく地面でひっくり返って赤い足を見せていました。また、ヨツモンカメムシ（写真⑤）が初めて森の家で越冬するのを確認しました。

- ツクツクボウシ定着か？ ミンミンゼミも？**：南区真駒内や川沿で毎年局所的に発生しているツクツクボウシ（写真⑥）。旭山ではそれまで8～9月に何日か鳴き声を聞くだけでしたが、今年は9月に半月以上毎日鳴き声が聞かれました。このまま旭山にも定着するのか、来年以降注目です。

また、今年はミンミンゼミも例年より長い期間鳴いており、こちらも注目です。

- スズメバチ少なかった** 昨年は園内散策路沿いの巣を7、8個除去し、今年の春は女王蜂が多かったのですが、除去した巣は1つだけ、夏から秋は姿も例年ほど多くは見なかったです。
- コンロンソウ再発見**：かつて園内で散見されたものの近年ほとんど見られなくなっていたコンロンソウ、第2駐車場から藻岩山登山口に行く道沿いに数株ありました。来年は花が咲くか楽しみです。
- 木の実が凶作**：上記イカル、クロジ、エゾライチョウの動きはすべて、山の木の実が凶作でイレギュラーに低地に来たものと推察されます。カケスも例年より早く9/2に山から降りて来ました。○来年はどのような動きが見られるのか、特にここに挙げたものには注目したいと思います。





## 旭山野鳥メモ 75 ダイサギ

ダイサギ Great Egret *Ardea alba* ペリカン目サギ科

北海道では冬鳥、大陸で繁殖し秋に渡って来る。厳冬期は少ない。

近年夏の観察情報も増えているが道内での繁殖は未確認。本州以南で繁殖するのはやや小さい別亜種チュウダイサギ。

冬鳥ダイサギは近年観察機会が増え、オオハクチョウやガンカモ類が集まる河川湖沼にはほぼ必ず数羽がいる感じ。

白鷺(シラサギ)の仲間で道内でよく見られるのはダイサギのみ。チュウサギ、コサギ、アマサギ(亜麻色の羽が換羽で抜け落ちると全身白くなる)はやや稀。南日本の海岸にはさらにクロサギの白色型もいる。

水辺に立ち、足で水底の泥をかき回すようなしぐさで振動を与えておびき出した魚を嘴で捕獲する。首を曲げ脚を後ろに伸ばして飛ぶのはサギ類共通の特徴。夏羽では体に蓑のような飾り羽が出る。

中島公園(写真)や月寒公園では近年ほぼ毎年見られており、旭山記念公園でも年に数回上空を飛ぶ姿が見られている。大きくて白い姿は美しい。北海道でもおなじみになってきた野鳥のひとつだ。



## 2025年12月の野鳥トピックス

- シマエナガ：ほぼ毎日園内で2、3度見られています
- オオワシ：11月中に園内上空で何度か観察されました
- ヒレンジャク：朝に園内で「ヒー」と鳴き声が聞かれ見られる日もあり、その群れにキレンジャクがいることもあります
- ウソ：観察機会が増え「フィ」と声はよく聞かれています
- ベニヒワ：旭山では数羽がときどき見られるだけです
- マヒワ：園内で時々出ていますが今年は少ないです
- シメ：「シーツ」という鳴き声を聞く機会は少なくないです
- ツグミ：11/17の寒波の後ほぼいなくなりました。今後まだ北から渡って来る可能性もあります
- キバシリ：今年は多く、西側エリアで日に1度は見られ、カラ類混群によく入っています(上写真)
- クマゲラ：週に3、4回園内で近くで見られており、鳴き声はほぼ毎日聞くことができます
- ヤマゲラ：観察機会は多くはないですが時々不意に近くで見られることがあります
- カケス：観察機会は多く「ジェイ」という鳴き声をよく聞きタカ類の鳴き真似もすることがあります



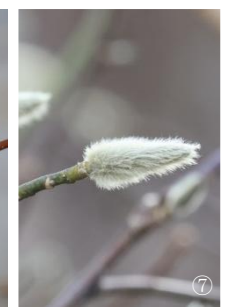
## 2025年の木の実と2026年キタコブシ「開花予想」

2024年は山の木の実が大大豊作でしたが、2025年は凶作、ナナカマドもミズキも実がなりません。

今年豊作だったのはオニグルミ、ヌルデ①とクズ②、まあまあがケヤマハンノキ③、ホオノキ④、クリくらい。

ただ、アズキナシ⑤が3本、カツラ⑥が1本そしてミズナラが1本どんぐりがなったように、園内でごくわずかながら実がなる木がありました。凶作の今年、それらの実が見られるのは貴重です。

一方で来年に目を向けると、この冬はキタコブシの花芽⑦がたくさんついていて、来春は花がたくさん咲くことが予想されます。長い冬のその先にたくさんの白い花、今から楽しみです。



公式サイト

「アカゲラ通信」 第146号 2025(令和7)年12月5日発行

(公財)札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiya/> 〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

電話 011-200-0311(金・土・日・祝日 10時~16時) FAX 011-200-0351